

平成 19 年 8 月 教育長 定例 記者 会見 資料

事 項	内 容				備 考	
<p>県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成20年度実施対象校）について</p>	<p>1 県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成19年度～平成22年度）について 「県立高等学校再編整備の基本計画」（平成14年6月）に基づいて策定した「県立高等学校再編整備の前期実施計画（平成15年度～平成18年度）」（平成15年2月）及び「県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成19年度～平成22年度）」（平成18年2月）の整備内容は、平成19年度の実施分まで計画通り進めているところですが、この度、平成20年度実施対象校の概要が次のとおりまとまりましたのでお知らせします。</p> <p>2 平成20年度実施対象校</p> <p style="text-align: center;">県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成20年度実施対象校）について</p>				<p>高校教育課 高校教育改革推進室担当 （内線5248）</p>	
	再編の内容	統合		中高一貫教育校		全日制課程の単位制高等学校(学科改編)
	対象高校	磯原郷英高等学校 （校名は案） （磯原及び北茨城の統合による新高校）	岩井高等学校 （校名は案） （岩井及び岩井西の統合による新高校）	並木中等教育学校 （校名は案） （並木高校を中等教育学校に改編）		勝田工業高等学校
	設置場所	北茨城市磯原町磯原912 （磯原高等学校の校地活用）	坂東市岩井4319-1 （岩井高等学校の校地活用）	つくば市並木4-5-1 （並木高等学校の校地活用）		ひたちなか市松戸町3-10-1
	改編内容 *数字は募集学級数(予定)	磯原高校（普通科5） 北茨城高校（普通科2） 普通科6	岩井高校（普通科7） 岩井西高校（普通科2） 普通科8	高校の募集を減じて中等教育学校に改編 【中等教育学校の募集】 前期課程3学級（H22年度から4学級） 【高校の募集】 H20.21:5学級H22:4学級H23:募集停止		工業に関する学科 （機械科2，電子機械科2，電気科2） 工業に関する学科 （総合工学科6：単位制）
	設置学科	全日制：普通科（単位制）	全日制：普通科	後期課程は全日制普通科単位制		全日制工業に関する学科(総合工学科単位制)
	学期制	2学期制	3学期制	2学期制		2学期制
改編のねらい	<p>両校のこれまでの教育実績を生かしながら単位制を導入するとともに、進路希望等に応じた教育課程を編成し、生徒一人ひとりの個性の伸長や学力の向上を図るとともに進路希望の実現を目指す。教育課程の編成に当たっては、2年次からは共通科目や自由選択科目のほか、選択科目群を設ける。進学希望者と就職希望者の両方に対応できる教育課程を編成し、きめ細かな指導を通して生徒の自ら学ぶ意欲や態度の育成を図る。</p>					
改編の主な内容	<p>多様な選択科目群の開設 生徒が多様な興味・関心や進路希望等に応じて学習できるよう、2・3年次において多様な選択科目群（3年次の場合、国立文系、私立文系、理系、英語系、事務系、福祉系、観光系など）を設ける。 学校設定科目の開設 生徒の興味・関心や進路希望に応じた学習ができるよう「世界史研究」、「物理研究」など、学校設定科目を多数開設する。 地元産業の学習 観光などの地元の産業に関することを授業の中に取り入れることで、就職希望者の選択科目の幅を広げ、地元産業の理解を深める。</p>					

平成 19 年 8 月 教育長 定例 記者会 見 資 料

事 項	内 容				備 考	
<p>県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成20年度実施対象校）について</p>	<p>県立高等学校再編整備の後期実施計画（平成20年度実施対象校）について</p>				<p>高校教育課 高校教育改革推進室担当 (内線5248)</p>	
	再編の内容	学科改編		総合選択制		定時制課程
	対象高校	<p>三和高等学校</p>	<p>波崎高等学校</p>	<p>潮来高等学校</p>		<p>結城第二高等学校</p>
	設置場所	<p>古河市五部54-1</p>	<p>神栖市土合本町2-9928-1</p>	<p>潮来市須賀3025</p>		<p>結城市結城7355</p>
	<p>改編内容 * 数字は募集学級数(予定)</p>	<p>普通科4 〔普通科3 普通科ヒューマンサービスコース1〕</p>	<p>〔普通科3 機械科1 電気科1 情報技術科1〕 〔普通科3 機械科1 電気科1 工業化学・情報科1〕</p>	<p>普通科3・商業科2・家政科1に総合選択制を導入</p>		<p>全日制課程(普通科2, 家政科1) ⇒定時制課程(普通科3) 三部制(午前部, 午後部, 夜間部)の単位制とする。</p>
	設置学科	<p>全日制: 普通科</p>	<p>全日制: 普通科 工業に関する学科 (機械科電気科工業化学・情報科)</p>	<p>全日制: 普通科 商業に関する学科(商業科) 家庭に関する学科(家政科)</p>		<p>定時制: 普通科 午前部 1学級(40人) 午後部 1学級(40人) 夜間部 1学級(40人)</p>
	学期制	<p>3学期制</p>	<p>2学期制</p>	<p>3学期制</p>		<p>2学期制</p>
改編のねらい	<p>少子化・高齢化社会のもとで高まる, 社会や生徒のヒューマンサービス教育分野への要望に応える。 専門教科として「ヒューマンサービス」を設定し, 専門科目の学習や勤労体験学習などを通して, 将来, 就職した職場で行われる教育の入門的指導を行い, 「働く意欲・忍耐力, 作業の基礎力」を育成する。社会福祉施設などでの体験や交流活動を重視した道徳教育(H17~18県研究指定校)の成果を踏まえ, 「共生」に関する教育を進展させ, 「豊かな心」を培う。</p>	<p>工業化学に関する知識と技術を学習し, 化学工業の技術者として活躍できる人材を育成することにより, 日本有数の化学コンビナートを有する地域のニーズに応え, 鹿島経済特区の人材育成に資する。 新設する「工業化学」コースでは, 工業化学に加え情報技術の基礎知識を有する, 企業が求める実践的な人材を育成する。企業実習の実施など, 地元企業との連携を深めることにより, 地域の教育資源を活用した教育を実践し, 地域産業への理解を深めるとともに, 将来の地域の担い手となる人材を育成する。</p>	<p>体験的・実践的な学習を通して勤労観・職業観を涵養する職業系専門学科(商業科, 家政科)のもつ教育力と, 学習の基礎・基本を養う普通科のもつ教育力を機能的に活用する。 学科の枠を越えた自由選択科目群を設けることにより, 生徒の興味・関心などを生かした選択科目の履修ができるようにし, 進路意識の高揚と自己実現を図る。 普通科の生徒が将来の資格につながる科目を選択したり, 専門学科の進学希望者が必要とする普通科科目を選択するなど, 生徒の必要に応じた科目の履修を可能にし, 進路希望の実現を目指す。</p>	<p>勤労青少年や, 不登校経験者, 中途退学者など多様化する生徒の学習の形態を準備し, そのニーズに応えるとともに, 生徒一人一人の自己理解, 自己実現を促す。 自分のライフスタイルに合わせて学ぶ時間帯を選ぶことや, 多様な科目群から学びたい科目を選ぶことにより, 生徒の主体的な学習を促す。 生徒と社会人が共に学び, 多様な人間関係を作るとともに, 心のふれ合いを大切にしたい指導により, 生徒の豊かな人間性を培う。</p>		
改編の主な内容	<p>専門教科「ヒューマンサービス」の設定 この教科は「社会福祉基礎」「ビジネスマナー」「安全衛生基礎」「品質管理基礎」の科目で構成し, 「共生」に関する学習を中心にとらえつつ, 挨拶や話し方の基本, 人間関係の作り方, コンプライアンス, 企業モラルなど, 実際の職場で必要性が求められている内容を学習する。(は学校設定教科・科目) 習熟度による少人数編成授業の充実 国語, 数学, 英語では, ヒューマンサービスコースを含めた全クラス統合による習熟度別授業を行い, 就職から進学まで, 生徒一人一人に応じたきめ細かな学習指導を展開する。 勤労体験学習の充実 「総合的な学習の時間」において勤労体験学習(ビルメンテナンス, 食品加工, クリーニング等)を行い, 勤労意欲や忍耐力を実践的に培う。</p>	<p>コース別の専門的な学習 1学年では生徒全員が工業全般の基礎及び工業化学・情報技術の基礎を共通に学び, 2学年からは生徒の興味・関心や進路希望に応じて2つのコースに分かれて専門的な内容を学習する。 ・「工業化学」コース(20名程度) 主に工業化学や化学製品の製造に関する基礎的な知識と技術を学習する。 ・「情報技術」コース(20名程度) 従来の「情報技術科」と同様, プログラミング, ハードウェア, ソフトウェアなど主にコンピュータに関する基礎的な知識と技術を学習する。 地元企業との連携を深めた教育実践 地元企業におけるデュアルシステムやインターンシップの実施及び社会人講師の活用など, 企業との連携を深めた教育実践を行うことにより, 勤労観・職業観の育成を図るとともに, 地域産業の発展に貢献できる実践的な人材の育成に努める。</p>	<p>選択コース制の導入による専門性の高い教育内容 2学年から, 商業科には会計ビジネスコースと情報ビジネスコースを, 家政科にはフードデザインコースと福祉コースを設け, より専門性の高い内容を学習する。普通科では, 将来の進路希望に応じた類型(専門学校・就職を目指すA類型, 大学進学を目指すB類型)を設けて進路希望の実現を図る。 学科の枠を越えた自由選択科目群の設定 生徒の興味・関心に応じ, 自分の所属する学科以外の科目を履修できるように, 商業科・家政科・普通科A類型において, 2学年で4単位, 3学年で4単位, 合計8単位の自由選択科目群から学科の枠を越えた科目の履修を可能とする。</p>	<p>昼夜開講の三部制に改編 午前部, 午後部, 夜間部から在籍する部を選ぶ。在籍以外の部, 高等学校卒業程度認定試験などの単位により3年間で卒業することも可。 多彩な科目を開講 芸術・生活関連科目を開講。習熟度別授業を展開。開設科目は, 全日制最終入学生の38科目から, 午前・午後部で各50程度に増設。 学校カウンセリング体制の充実 カウンセリングコーディネーターなどの常駐。授業は少人数制できめ細かな指導。生徒の居場所としての多目的ルーム(談話室)を整備。必修科目「心理学」を開講。 地域に開かれた学校づくり 地域の社会人が生徒と共に学ぶ科目履修生(聴講生)を受け入れる。地域でのボランティア活動, 就業体験などを単位認定する。</p>		

	北茨城地区新高等学校	岩井地区新高等学校
基本的な枠組み	(1)開校時期：平成20年4月。設置は県立学校設置条例改正時(第3回定例会予定)磯原高等学校、北茨城高等学校は平成20年度から生徒の募集を停止する。 (2)設置場所：現有の磯原高等学校の校地や校舎を活用する。 (3)課程：全日制課程 (4)設置学科：普通科(単位制) (5)募集学級及び募集定員：普通科6学級240人	(1)開校時期：平成20年4月。設置は県立学校設置条例改正時(第3回定例会予定)岩井高等学校と岩井西高等学校は平成20年度から生徒の募集を停止する。 (2)設置場所：現有の岩井高等学校の校地や校舎を利用する。 (3)課程：全日制課程 (4)設置学科：普通科 (5)募集学級及び募集定員：普通科8学級320人
校名(案)	茨城県立磯原郷英高等学校 案	茨城県立岩井高等学校 案
校名の由来	・「磯原」は所在地を明示する。 ・「郷」は郷土に根ざした学校であることを、「英」は優れた生徒が育ってほしいという願いを表している。	・統合する両校とも岩井地区に設置された学校であり、「岩井」という地名を両校の校名の中に使用している。 ・様々な歴史を背負い、地域の人たちから親しまれてきた「岩井」という地名を生かす。
選定経過	北茨城地区新高等学校設置推進協議会(1)と北茨城地区新校準備委員会(2)で検討した校名候補案について、複数案に絞り、県教育長に提出した。この複数案について知事と教育委員会とで協議し、条例提出案を「磯原郷英」とすることを決めた。 1 委員長に村田北茨城市長(当時)をあて、委員17名、顧問1名を構成員とする北茨城市で設置した組織 2 委員長に金田磯原高等学校長、副委員長に菅谷北茨城高等学校長をあて、委員16名を構成員とする県教育庁で設置した組織	岩井地区新校設置推進協議会(1)と岩井地区新校準備委員会(2)で検討した校名候補案について、複数案に絞り、県教育長に提出した。この複数案について知事と教育委員会とで協議し、条例提出案を「岩井」とすることを決めた。 1 委員長に石塚坂東市長をあて、委員19名、顧問1名を構成員とする坂東市で設置した組織。 2 委員長に山口岩井高等学校長、副委員長に玉田岩井西高等学校長をあて、委員16名を構成員とする県教育庁で設置した組織。
校訓	「真摯にしまなざし高く」	「自律」「責任」「知性」
教育目標等	阿武隈の山並み、常磐の大海原と豊かな自然に恵まれ、近代文化発展の魁となったこの地で、地域の伝統及び文化を継承し、新しい学校文化を創造するとともに、知性、特性、体力の調和のとれた人格を形成し、ひたむきに物事に取り組む姿勢を養い、適性や能力に応じた生徒一人一人の自己実現と、地域、日本そして世界の明日を担う有為な人材の育成を目指す。	(1)豊かな心と確かな学力の育成に努める。 (2)生徒の進路希望の実現に向けて、計画的な進路指導に取り組む。 (3)生徒指導の充実に努め、規範意識の確立を図る。 (4)学校行事などの特別活動の充実に努める。
教育課程編成	(1)多様な選択科目群の開設 生徒の興味・関心や進路に応じた学習ができるよう、2、3年次には共通科目や自由選択科目のほか、選択科目群を設ける。 2年次には5つの科目群を、3年次には12の科目群をそれぞれ設ける予定である。 2年次の選択科目群 文系、理系、文理系、事務系、技術技能系 3年次の選択科目群 国文系、私文系、理系、英語系、文理系、看護医療系、事務系、技術技能系、商業情報系、福祉系、コミュニケーション系、観光系 (2)進学に向けた指導の充実 進学希望者に対しては、少人数・習熟度別指導を実施し、学力の向上を図る。 (3)キャリア教育の充実 企業関係者による進路講話や、希望者を対象としたインターンシップを実施し、将来の社会人としての勤労観・職業観の育成を図る。 (4)地元産業の学習 自由選択科目としては、ビジネスマナーや陶芸等を設定する。選択科目群としては、地元の産業について学習する観光系を設定する。	(1)進路希望に応じたコースを設定し、多様な進路希望に対応できる教育課程を編成 1学年は、全員が共通科目を履修し、2学年からは生徒の進路希望に応じ、3つのコースから1つを選択する。 2学年からの進路希望別コース 就職コース：商業の科目を履修し、簿記・ワープロ検定などの各種資格が取得と進路の実現を目指す。 短大・専門学校進学コース：各教科の科目を幅広く履修し、基礎学力の充実と進学希望の実現を目指す。 大学進学コース：多様な選択科目から、生徒の進路(文系・理系)に応じて科目選択を行い、進学希望の実現を目指す。 (2)進学指導の充実 新入生から進学希望に応じたクラス編成を行い、進学に対する意識の高揚を図る。 進学課外や長期休業中の学習合宿を実施し、進学希望の実現を目指す。 (3)ガイダンス機能の充実・キャリア教育の推進 生徒一人一人の進路実現を図るため、外部講師や大学の出前授業などを活用した進路ガイダンスを計画し、生徒自らが主体的に進路を選択できるようにする。 「就業体験」や「職場見学」を実施し、主体的な職業選択能力や望ましい勤労観を育てる。 (4)基礎学力の定着・向上を図る 1学年での数学・英語の授業における習熟度別少人数授業の実施や、全学年での国語・数学小テストの実施などにより、基礎学力の充実を目指す。 (5)「在り方生き方教育」(道徳教育)の充実 1学年の道徳の時間及び2学年・3学年の総合的な学習の時間に、人間としての「在り方生き方教育」を計画的に取り込み、豊かな人間性や道徳性の涵養を図る。
その他	(1)北茨城地区新校準備委員会 磯原高等学校長、北茨城高等学校長、県教育庁高校教育課高校教育改革推進室長などを構成員とし、県教育庁で設置した。 校名候補案について検討を行ったほか、教育目標、教育課程の編成、入学者選抜内規などの検討を行っている。 (2)磯原高等学校・北茨城高等学校の在校生の取り扱い ア 平成19年度までに入学した生徒は、それぞれの学校で入学時に示された教育課程を履修して卒業する。 イ 在校生の学習希望や進路希望などに配慮し、適切に対応していく。	(1)岩井地区新校準備委員会 岩井高等学校長、岩井西高等学校長、県教育庁高校教育課高校教育改革推進室長などを構成員とし、県教育庁で設置した。 教育目標、教育課程の編成、入学者選抜内規などの検討を行っている。 (2)岩井高等学校・岩井西高等学校の在校生の取り扱い ア 平成19年度までに入学した生徒は、それぞれの学校で、入学時に示された教育課程を履修して卒業する。 イ 在校生の学習希望や進路希望などに配慮し、適切に対応していく。

並木地区中等教育学校（仮称）の概要

参考資料

校名案	並木中等教育学校（案） （並木高等学校を中等教育学校に改編）	
設置場所	つくば市並木4丁目5番地1 （並木高等学校の校地活用）	
形態及び設置学科	中等教育学校 後期課程：普通科単位制	
開校年度	平成20年度	
通学区域	全県	
学期制	2学期制	
募集学級（募集定員）	平成20・21年度：3学級（120人）、平成22年度以降：4学級（160人） 並木高等学校の募集学級（募集定員）については 平成20・21年度：5学級（200人）、平成22年度：4学級（160人） 平成23年度：募集停止	
設置のねらい	6年間の継続的・計画的な教育指導の展開により、生徒の個性を伸長する。また、異年齢集団による活動を行うことにより、社会性や豊かな人間性をより育成する。これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫教育も選択できるようにすることにより、中等教育の多様化を推進する。	
設置の主な内容	校訓	『自制』 『自律』 『自尊』
	教育理念	6年間の継続的・計画的な教育活動などを通し、豊かな人間性と確かな学力を身に付けさせる。 異年齢集団の中での生活などを通し、高い志と社会性をもち、次代を担う人材を育成する。 地域の特色を生かして科学教育と国際理解教育を充実し、日本や世界で活躍できる人間を育成する。
	目指す学校像	人との多様なふれあいを通して人間教育を行う学校 地域の研究機関などを活用し科学教育を行う学校 国語と外国語の学習の充実や海外の学校との交流など国際理解教育を行う学校
	育てたい生徒像	高い志と、それを実現しようとする意欲をもつ生徒 創造性豊かで、高い知性をもち、広い視野から物事を考える生徒 自他を共に敬愛する心と、物事に感動する豊かな感性をもつ生徒
	入学者の決定方法	県立中等教育学校入学者募集計画により実施する予定。 提出書類、面接や適性検査の結果を総合的に判断して、合格者を決定する。 入学者の男女の数は同数程度とする。 【入学者選抜日程案】 適性検査・面接実施：平成20年1月12日（土） 合格者の発表：平成20年1月23日（水）学校のHPで発表
	その他	教育課程、特色ある教育活動などについては現在検討中。
	並木高等学校在校生の取扱	並木高等学校は中等教育学校の前期課程生徒が後期課程に進級する平成23年度に募集を停止する。平成22年度までに並木高等学校に入学した生徒は、入学時に示された教育課程を履修して卒業する。

結城第二高等学校（定時制課程の単位制高等学校）の概要

参考資料

教育方針	生徒一人ひとりをかけがえのない存在として尊重するとともに、社会を構成する有為な存在として自らの社会性を高められるよう学校をあげて支援することなどにより、豊かな人間性を備えた人材を育成する。
校訓	「健実」
教育目標	個に応じた教育課程に基づく学習をとおし、向上心を高め、自己実現を目指せる教育を推進する。 心理教育的支援等をとおし、自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性を育める教育を推進する。 地域社会との連携をとおし、いつでもだれでも学べる、開かれた学校を目指す。
特色ある教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自分で自分の時間割を作成 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味・関心、進路希望などに応じて多彩な科目群から科目選択ができる。 ・自分の在籍する部以外の科目を履修できるため、3年で卒業することも可。 ・選択科目として「漢字の学習」「国語常識」「名作鑑賞」「時事問題」「陶芸」「コーラス」「ステージワーク」「中国語」「英語演習」「手話」「ヨガ」「短歌・俳句」「伝統工芸」「製菓実習」「アウトドアスポーツ」などの学校設定科目を開設する予定。 ・国語、数学、英語の教科で習熟度別授業を展開する。 (2) 学校外の成果を単位認定 高等学校卒業程度認定試験の合格科目、技能審査（英検、漢検など）、学校外における学修（ボランティア活動、就業体験）など学校外で学んだ成果も卒業単位として認定する。 (3) 科目履修生の受け入れ 「陶芸」「中国語」「ヨガ」などの科目を一般社会人にも開放するため、定員に余裕がある場合、科目履修生（聴講生）を募集する。 (4) 少人数のきめ細かな学習指導 多様な選択科目の開設や、習熟度別授業展開により、少人数できめ細かな学習指導を行う。 (5) 地域の教育力を活用 社会人講師や科目履修生など地域の社会人とふれ合い、学びあうことにより、生徒の豊かな人間関係を作る。また、地域と連携し地域でのボランティア活動、就業体験を単位認定する。
学校カウンセリング体制	<p>人間関係のスキルアップ、勉強方法などの改善を図りたいという生徒のニーズや、心理教育的支援を必要とする生徒に対し、学校カウンセリングを次のように行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) カウンセラーなどによる手厚い支援 カウンセリングコーディネーターの配置 相談担当の教諭が、カウンセラーとして活動するとともに、カウンセリング関係者の調整を行う。 キャンパスエイドの配置 茨城大学の大学院生・大学生が毎日常駐し、生徒の話し相手として支援活動を行う。 (2) 生徒の居場所作り 授業のない時間に生徒の居場所として多目的ルーム（談話室）を整備し、また、悩みをもつ生徒の居場所としてカウンセリング室にフリースペースを整備する。 (3) 心理・進路に関する学習の充実 すべての生徒を対象に、人間関係作りを促すため、必修科目の「心理学」（構成的グループ・エンカウンターなどを行う）や総合的な学習の時間などでキャリア教育を実施する。
地域との連携	<p>結城市との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結城市の「まちづくり推進課」と連携し、協働のまちづくりとして、公園の清掃などのボランティア活動を行う。
その他	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校の愛称...「結城フレックススクール」 新しい学校であることをイメージできるように学校の愛称を定めた。名前の由来は、学ぶ時間帯や科目を生徒自身がフレキシブルに選べることによる。 (2) 入学者選抜 推薦入学、一般入学を実施する。なお、一般入学の学力検査は3科目で実施する。 午前部・午後部間で第2志望が可である。成人特例選抜を実施する。 (3) 夜間給食の実施 夜間部の生徒に、デリバリー方式の完全給食（学校栄養職員の栄養管理などのもとで民間委託）を実施する。 (4) 全日制の在校生の取り扱い 平成19年度までに入学した生徒は、入学時に示された教育課程を履修して卒業する。